



千葉県議会議員 (香取市・香取郡神崎町・香取郡多古町選出)

かとう裕太 新聞

40号

子育て世代
3児の父



神崎河川敷祭〜こうざきりバーサイドフェスティバル〜

今月の TOPICS



- 千葉県議会一般質問・予算委員会・常任委員会報告
- 県政の動きまとめ
- 県議会の自民党会派に入会のご報告
- 活動報告 (抜粋)

千葉県で進んでいること

香取地域での専門的かつきめ細かな消費生活相談対応を更に推進するため、消費生活相談業務の広域連携がスタートしました。神崎町・多古町・東庄町の方も、香取市消費生活センターを利用することができます。

発酵グルメフェスが開催予定

「発酵県ちば」を千葉県のブランドとして確立するため、県内の様々な飲食店等が醤油や味噌、みりんなどを使用した発酵メニューを提供する飲食コーナーのほか、ワークショップやパネル展示など、発酵の魅力を感じることができるイベントを開催する予定です。

香取神宮の古文書等が重要文化財に指定へ

国の文化審議会が文部科学大臣に対し、香取神宮の古文書等を重要文化財に指定するよう答申しました。この古文書は東国中世社会の実態を伝える希有な史料となっており、学術的価値が高いとされています。

皆さまへご報告

県議会の自民党会派に入会

要件をみたしたことから、以前から希望していた県議会の自民党会派に、3月27日付で入会いたしました。自民党会派に入ることによって、一般質問の回数や時間が増えること、党内での議連等で最先端の政策を専門的に学び、最前線で政策提案ができること、全国的なネットワークを駆使して地元の課題解決に役立てたり、地元のPRができたりすることなど大きな変化があると考えます。この変化をうまく活用して、地元の皆さまのために、千葉県の皆さまのためにさらにしっかりと活動してまいります。

かとう裕太 日々の活動報告



かとう裕太が情熱を持ってあなたの元に駆けつけます!

- 香取地域について話し合いたい
- 暮らしの中の困り事を相談したい
- かとう裕太の情熱を確かめたい
- 政治のことを知りたい など

下記のメール・お電話、またはSNSのDM・コメントをいただければ、駆けつけます!お気軽にご連絡ください。

発行元 連絡先 **加藤裕太事務所**
 〒287-0003 千葉県香取市佐原1551-4
 電話 0478-88-9020 メール mail@yutakato.jp



こちらのQRコードから、すべてのSNSアカウントへアクセスできます!

ごあいさつ

2026年2月10日から3月13日までの日程で、令和8年2月定例県議会が開催されました。今回の2月議会では、新しい総合計画を反映した予算規模2兆2,535億円となる一般会計予算が成立しました。成田空港を核とした産業拠点の形成や千葉の自然を活用した観光地域づくり、稼げる農業の推進などによる千葉経済圏の確立、また、道路ネットワークの整備などの社会資本の充実、不妊検査への支援や教育費の負担軽減などの子育て・教育施策の推進、带状疱疹の予防接種支援や介護現場の業務改善などの医療・福祉の充実をはじめ、各分野にわたり「新しい千葉の未来の創造」に向けた事業予算が計上されました。

また、かとう裕太は2月25日に登壇して一般質問を行い、成田空港やさつまいも等の農業政策、県立佐原病院、多古高校、黒部川、国道・県道等の道路整備などについて伺いました。そのほかにも予算委員会や総合企画企業常任委員会で質問をするなど、質問の機会の多い議会でした。閉会後の3月27日付で、以前から入会を希望していた県議会の自民党会派に入会いたしました。ここからさらに、地元地域と千葉県政の発展のため、働いてまいります。

寒暖差も大きな時期になってきましたので、どうぞお身体を大切にお過ごしください。

千葉県議会議員 **かとう裕太**

成田空港について



SAF*の促進について

*持続可能な航空燃料の略称。循環型の原料で製造された航空燃料

政府は2030年時点で「本邦エアラインによる燃料使用量の10%をSAFに置き換える」という目標を設定しており、廃食油やバイオマス、廃プラスチックなどのSAFの原料獲得競争は年々激しくなっています。そのような中、地元の香取市では、農業法人の方が成田国際空港株式会社や名古屋大学、神戸大学と協力し、スイートソルガムという植物からバイオエタノールを製造して、SAFの千産千消*に向けた取り組みを進めるなどしています。成田空港を擁する千葉県としても、SAF導入に向けた取り組みをしっかりと支えていくことが必要だと考えます。 ※地産地消を県の千に掛けて千葉県では「千産千消」と呼称しています

質問 かつう SAFの促進に向けて、県ではどのような取り組みを行っているのでしょうか。

回答 総合企画部長 第2の開港プロジェクトが進む成田空港において、SAFが安定的に供給されていくことは重要と認識しています。県ではSAFの安定供給に向けた第一歩として、企業によるサプライチェーン構築を後押しするため、令和6年度から2カ年にわたり「SAF導入促進事業補助」を実施してきたところです。また、SAFの導入促進に向けては関係都県と連携して、国に財政支援を講じるよう求めたところであり、今後もSAFの安定供給に向け、必要な取り組みを継続してまいります。

成田空港周辺地域の公共交通の確保

成田空港では「成田空港 第2の開港プロジェクト」として、第3滑走路の整備など、更なる機能強化が進められています。これは空港の面積が約2倍になり、年間発着容量も現在の約34万回から約50万回に拡大されるほか、空港内で働く方々も現在の約4万人から最大7万人へと、約3万人も増える一大国家プロジェクトです。このプロジェクトを着実に進めていくためには、空港と周辺地域を結ぶ公共交通の確保が重要となります。地域の皆さまからも、「地域と成田空港を直接結ぶバスなどの公共交通機関があれば便利になるのでは」というご意見をたくさんいただいております。

質問 かつう 空港周辺地域における公共交通の確保に向けて、県ではどのような取り組みを行っているのでしょうか。

回答 熊谷知事 第2の開港プロジェクトの効果を、空港のみならず周辺地域に波及させるためには、地域と空港の往来の充実を図っていくことが重要です。このため、令和8年度当初予算案に、空港周辺の地域公共交通に係る検討事業を盛り込み、空港と空港周辺の各拠点などを結ぶ、効率的な地域公共交通ネットワークの実現に向けたロードマップなどについて、検討を進めます。本事業を通じて、空港周辺市町や、協定を締結した京成電鉄などの関係機関とも連携しながら、国際的な産業拠点の形成や、それを支える地域づくりにつなげてまいります。

農業政策について



サツマイモ基腐病対策

「サツマイモ基腐病」は、苗や土を介して感染が広がり、イモが腐ったり、葉や茎が枯れてしまったりする病気で、一度発生すると防除が難しいことから、産地に著しい被害をもたらすおそれがあります。昨年11月に茨城県で確認されて以来、私の地元の生産者の皆さまからも大きな不安の声が寄せられており、千葉県としても、より一層、サツマイモ基腐病への対策を強化していただきたいとのご意見をいただいております。

質問 かつう 千葉県におけるサツマイモ基腐病の発生状況と発生防止に向けた取り組みについて教えてください。

回答 農林水産部長 本県では、令和3年に初めて家庭菜園等において本病が確認されたことから、直ちに感染防止対策の指導を行い、令和4年以降は県内での発生は確認されていません。本病の発生防止には、感染した苗をほ場へ持ち込まないことが特に重要であるため、健全な苗を使用することなどのルールを定め、家庭菜園を含むサツマイモ栽培者への周知を図っているところです。また、万が一発生した場合にも早期対応ができるよう、疑わしい症状を発見した際の県への連絡体制を整備しています。さらに、昨年11月に近県で発生が確認されたことを受け、県ホームページやSNS等を活用して栽培者への注意喚起を行うとともに、苗販売店やホームセンター等と連携し、健全な苗の使用を呼びかけるなど、啓発の強化に取り組んでいます。

さつまいも博

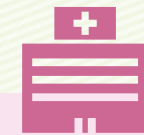
千葉県で初めて開催された「夏のさつまいも博2025」には、たくさんの方々が幕張メッセにお越しに

なり、大変な盛り上がりでした。私も家族と一緒に伺いましたが、さつまいもの魅力を存分に楽しませていただきました。今年に入ってからも、2月11日から15日に幕張メッセで「冬のさつまいも博2026」が千葉県では初めて開催され、さらに今年の「夏のさつまいも博」も千葉県で開催されることが発表されました。県では、「千葉県の顔」となる農産物として、さつまいもを集中的にプロモーションしているところですが、さつまいも博はPRに絶好の場であり、ぜひ今後も継続して開催できるようにしていただきたいと思います。

質問 かつう 「さつまいも博」の今後の開催に関する県の具体的な考えをお聞かせください。

回答 熊谷知事 昨年8月、国内最大級のさつまいもに特化したイベントである「夏のさつまいも博」が幕張メッセにおいて県内で初めて開催されましたが、夏の開催としては過去最大となる約3万6千人が来場しました。さらに、先日盛況のうちに閉会した「冬のさつまいも博」は、約4万5千人が来場し、県内外の幅広い世代の方々に、旬のさつまいもの魅力を満喫していただくことができました。県としては、今後も「さつまいも博」の開催を通じ、全国トップクラスのさつまいも産地として、その美味しさや歴史、栽培へのこだわりなどを広く発信できるよう、関係者と連携しながら、「さつまいも博」の県内定着に向けて取り組んでまいります。

医療政策について



県立佐原病院について

県立佐原病院は、香取地域の中核的な病院として、幅広い疾患に対応する外来診療・入院診療を行うとともに、在宅療養支援病院の認定を取得し、訪問看護をはじめとした在宅医療にも力を入れています。また、救急基幹センターとして24時間365日の救急外来に対応しているほか、災害時には地域の医療救護活動の中心となる災害拠点病院として、重要な役割を担っているところです。

一方で、佐原病院の経営状況を見ますと、令和6年度の決算では約12億円の赤字となっており、過去を見ても大変厳しい状況が続いています。しかし、地域にとっては大変重要な役割を担っている病院であり、今後も地域の皆さまが安心して暮らしていけるよう、必要な医療を提供していくことが求められています。そのような中、県立佐原病院が地域の中核病院として継続して医療を提供していくためには、医師や看護師の確保が大変重要になってくると考えます。

質問 かつう 佐原病院における医師・看護師の現在の確保状況と今後の確保策を具体的に教えてください。

回答 病院局長 県立佐原病院における令和7年4月の常勤医師は22名、看護師は178名であり、5年前の令和2年4月と比べて、常勤医師は5名増、看護師は同数となっています。現在、医師確保のため、大学医局への派遣要請等を行うとともに、看護師確保のため、就職説明会等の広報活動の充実、採用後の離職防止のための定着対策の実施などに取り組んでいるところであり、引き続き、必要な人員の確保に努めてまいります。

道路整備について



小見川大橋渋滞対策

私の地元の香取市においては、茨城県神栖市とを結ぶ小見川大橋付近の渋滞が、平日のみならず休日も朝夕を中心に慢性的に発生している状況となっています。香取市長選挙では、すべての候補が小見川大橋付近の渋滞解消について選挙公約にするなど、地域の皆さまの多くが渋滞解消策を求めています。

質問 かつう 小見川大橋付近の渋滞対策に向けた取り組みについて教えてください。

回答 県土整備部長 小見川大橋は、県道成田小見川鹿島港線の県境に位置しており、小見川大橋付近では朝夕を中心に渋滞が発生しています。県では、これまでに、交通量調査の結果等を踏まえた渋滞対策の検討を行い、信号サイクルの変更や右折レーンの延長などの短期対策を実施してきたところであり、現在は、小見川大橋入口交差点において、神崎町側の右折レーンの設置に向けた道路拡幅工事を進めています。引き続き、実施中の対策を進めるとともに、小見川大橋付近の更なる対策の検討を進め、渋滞緩和が図られるよう取り組んでまいります。

この他にも、農産物輸出の拡大、多古高校における学びの充実、黒部川の環境整備、圏央道大栄多古間・(仮称)神崎PA、国道356号、県道郡停車場大須賀線等について質問しました。また、予算委員会・総合企画企業常任委員会においても質問をいたしました。

県議会定例会などの詳細内容は
こちらからもご覧いただけます

